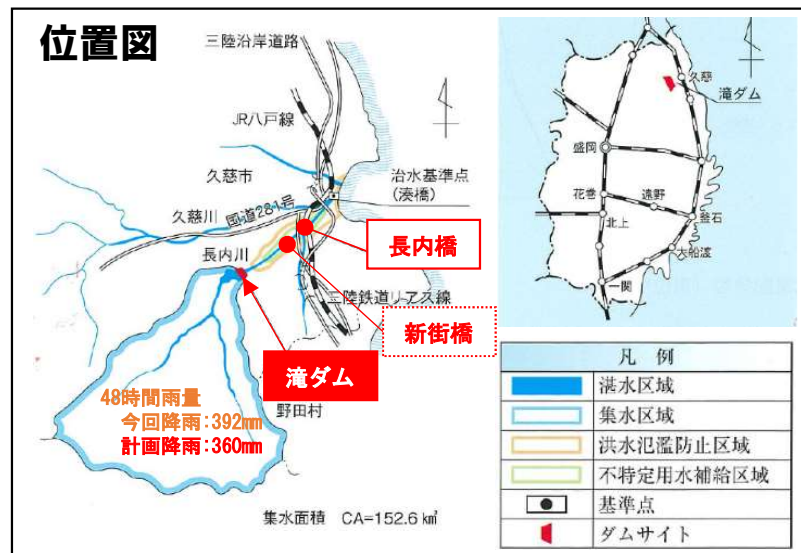
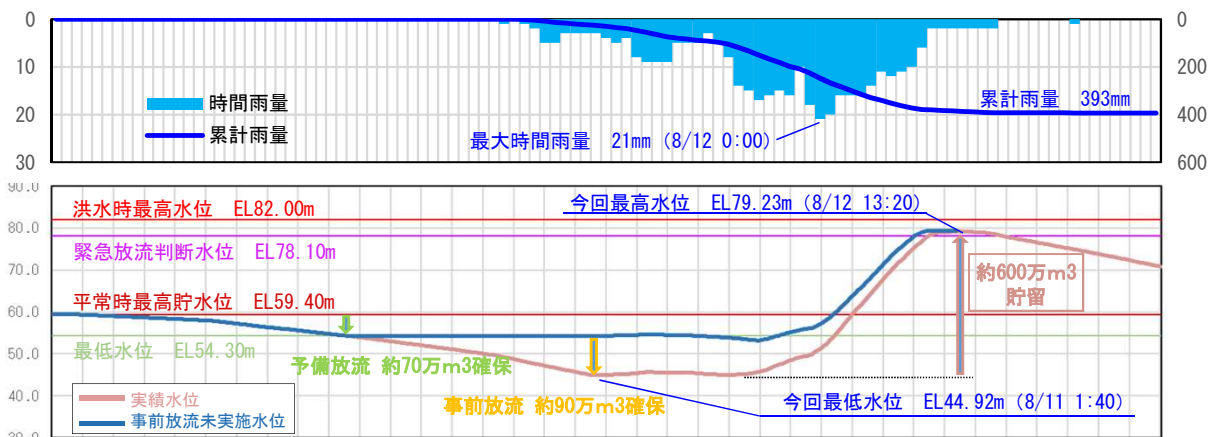


# 二級河川久慈川水系長内川 滝ダム(岩手県久慈市)の 事前放流及び洪水調節による治水効果 (令和6年8月 台風第5号)

- 二級河川久慈川水系長内川の滝ダムでは、台風第5号による豪雨に備え、予備放流を実施し洪水調節容量600万m<sup>3</sup>を確保、さらに事前放流により約90万m<sup>3</sup>の容量を追加で確保し、洪水調節を実施した。
- 計画を上回る大雨により緊急放流に移行したものの、洪水調節により洪水のピーク時の375m<sup>3</sup>/sを295m<sup>3</sup>/sへ80m<sup>3</sup>/s(約20%)低減させ、下流河川の水位低減、洪水による浸水被害防止に効果を発揮した。
- 上記洪水調節によりピーク水位の発生時刻を約5時間遅らせ、水防活動や避難行動に要する時間を確保した。
- また、事前放流の効果として、最大放流量を54m<sup>3</sup>/s抑え、緊急放流の開始時刻を約1時間遅らせた。



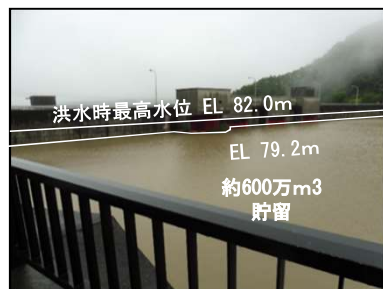
## 事前放流・洪水調節の状況



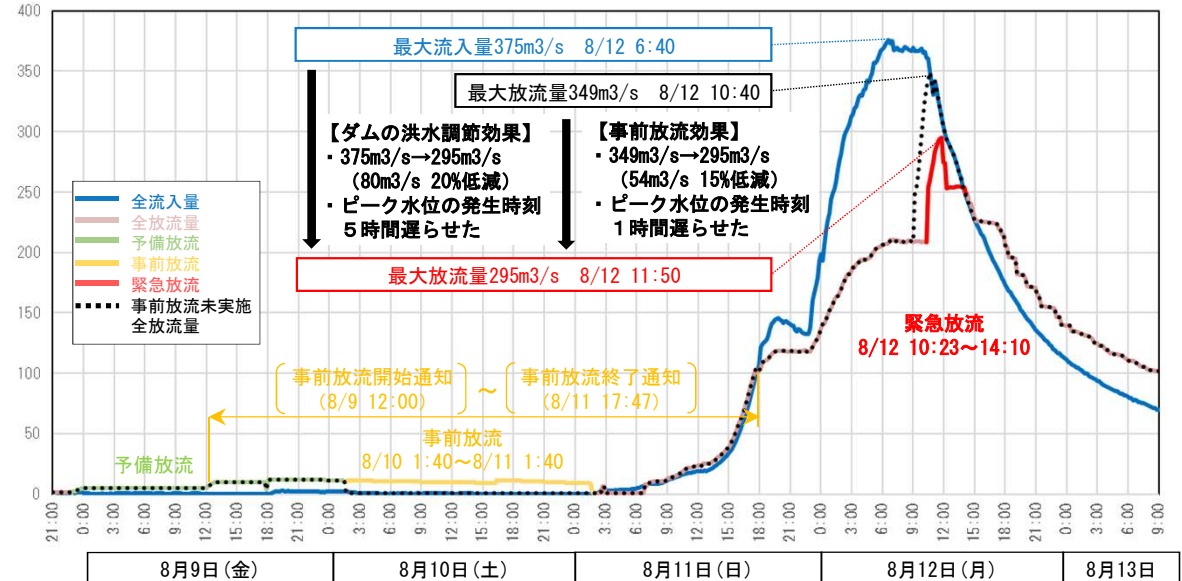
## 貯水池の状況



8月11日8:30  
事前放流実施後の貯水位維持



8月12日14:00  
緊急放流中



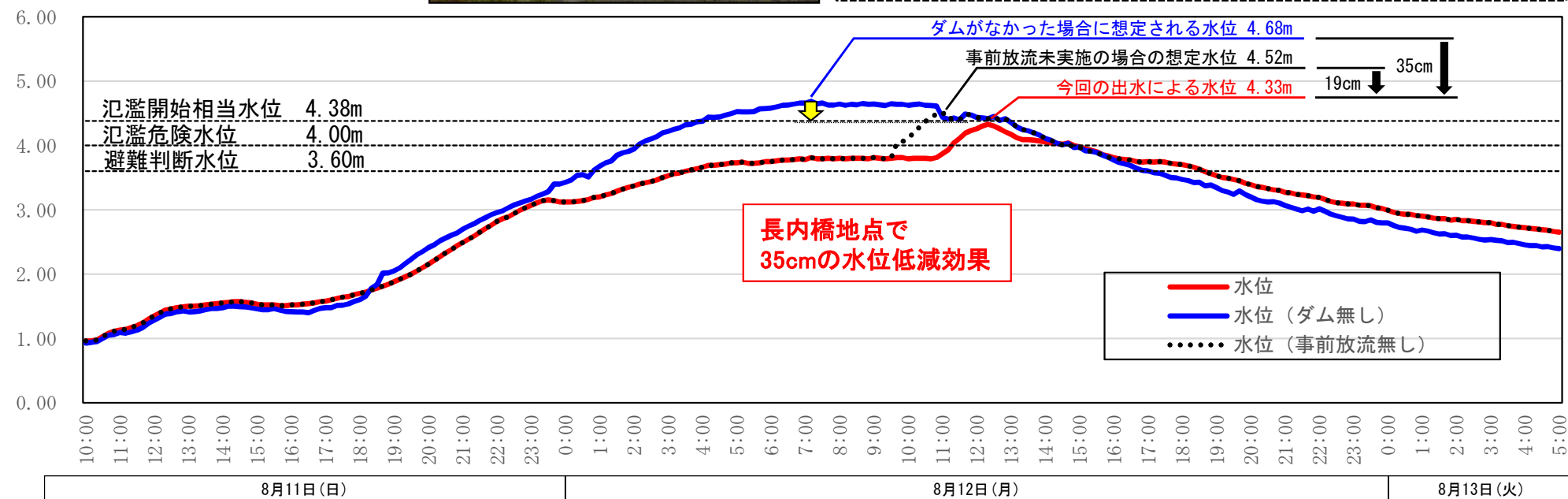
# 二級河川久慈川水系長内川 滝ダム(岩手県久慈市)の 事前放流及び洪水調節による治水効果 (令和6年8月 台風第5号)

- 滝ダム下流の長内橋地点では、ダムの予備放流、事前放流及び洪水調節により、35cmの水位の低減効果があったものと推定され、河川水位を氾濫開始相当水位4.38m以下に抑えることができ、ダム下流河川の越水氾濫の防止に効果を発揮した。
- ダムがなかった場合、氾濫開始相当水位を超過し、沿川では洪水による浸水被害が発生していたと推定される。
- また、事前放流未実施の場合も同様に、氾濫開始相当水位を超過していたものと推定される。

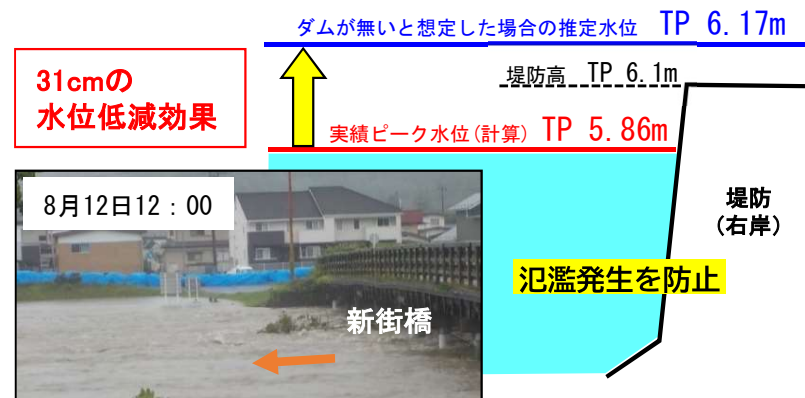
## ■長内橋地点の水位低減効果



## ■長内橋水位観測所



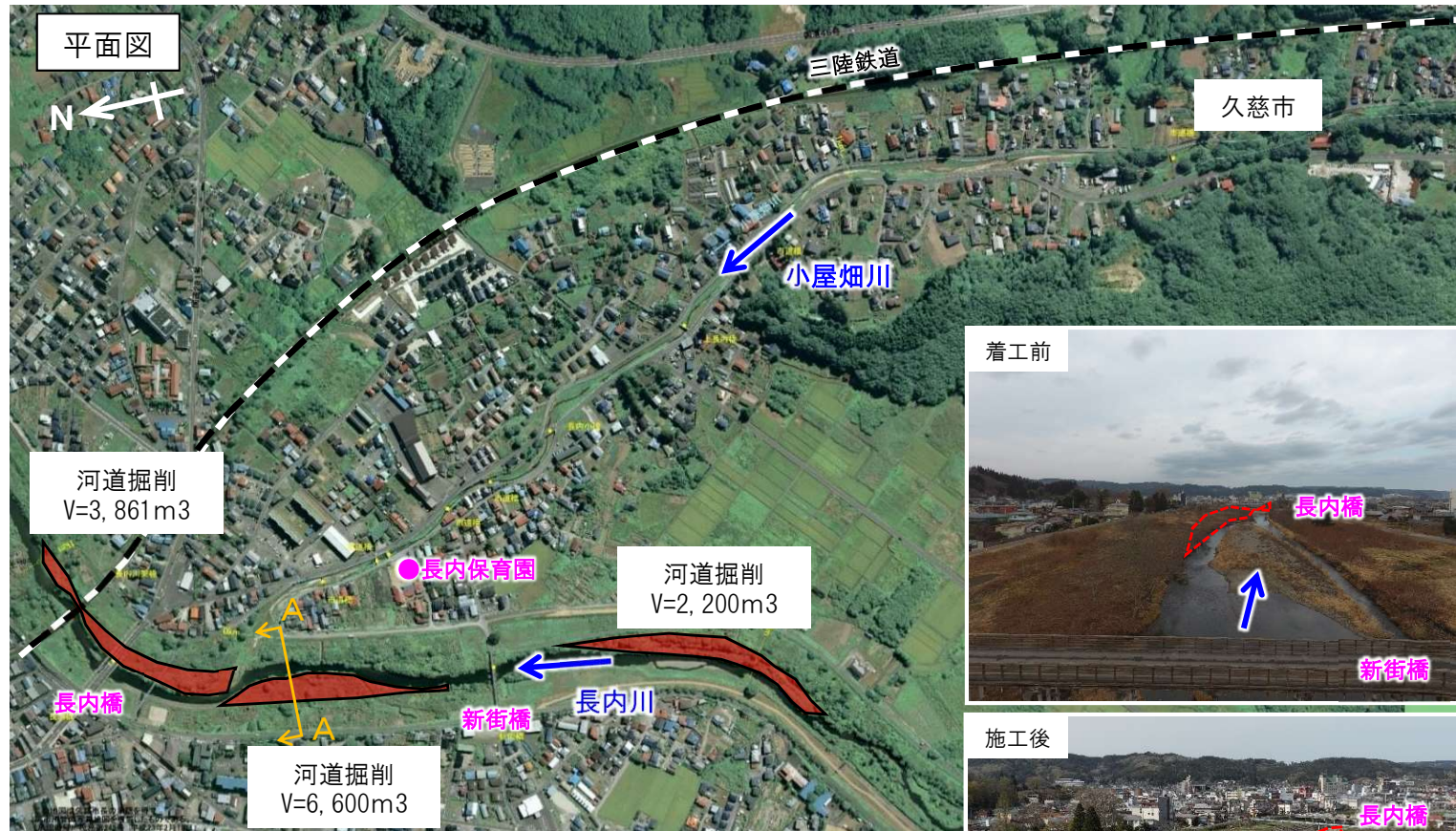
## ■新街橋地点の水位低減効果(参考)



# 【参考】 国土強靱化対策による効果

## 新街橋周辺の河道掘削による浸水被害の未然対策（令和6年8月 台風第5号）

- 滝ダム下流の長内川では、国土強靱化予算を活用し、河積断面が不足する新街橋周辺において河道に堆積した土砂を撤去する河道掘削を行っている。
- 今回の台風第5号に伴う豪雨により生じた洪水では、滝ダムの事前放流及び洪水調節による下流河道の水位低下と併せ、未然対策として、河道掘削による河積断面の確保により、水位低下に効果を発揮した。



【河道掘削実施概要】

令和元年	V= 3,861m <sup>3</sup>
令和4年	V= 6,600m <sup>3</sup>
	V= 2,200m <sup>3</sup>
合計	V=12,661m <sup>3</sup>

標準断面図

